

みやま市観光振興計画

平成23年3月
みやま市

みやま市観光振興計画策定にあたって



現在、全国的にも人口減少や少子高齢化の進行、社会経済の低迷、環境破壊などが問題となっている中、みやま市においても住民のニーズや地域の実情に応じたまちづくりが求められております。

本市は、平成19年1月29日に瀬高町、高田町、山川町が合併して生まれた新しい都市で、旧3町から受け継いだ豊かな自然や歴史文化等の地域資源が数多く存在しており、市民だけでなく来訪者の方々の心も癒してくれます。

一方、九州自動車道みやま柳川インターチェンジや有明海沿岸道路の都市基盤整備も進み、広域的にも交通利便性の高い地域になってまいりました。

平成20年9月に策定した「第1次みやま市総合計画」に基づき、海・山・川の豊かな自然環境と文化・歴史に育まれた本市の特性と九州自動車道みやま柳川インターチェンジ、有明海沿岸道路の整備、九州新幹線筑後船小屋駅等のインフラ整備を活かした戦略的観光振興を図るために「みやま市観光振興計画」を策定致しました。

本計画の策定にあたり、現状と課題及び今後の展望などについて、様々な市民の方々にヒアリングを行い、熱心な審議をいただいた策定委員の皆さまに心から感謝を申し上げます。

また、市民の皆さまには本計画を実現し、魅力あるみやま市を構築するためのご理解とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成23年3月

みやま市長 西原 親

はじめに



清水山から見下ろすみやま市街地



清水寺本坊庭園



幸若舞



濃施山公園の菖蒲園

「みやまには何も無い」

みやま市を歩くと、そんな声が聞こえてきます。

清水寺、お牧山、幸若舞、田園風景・・・それらは、みやまの観光イメージとして数多く露出し、それ故に消費しつくされてしまったのでしょうか。

でも、考えてみれば、「何も無い」と感じてしまう心理は、みやまに限定して発生するものではありません。左の清水山からの風景写真をみて、これが「みやま市」であると気付かせるような要素を見出せる人は少ないでしょう。つまり、表面的には似たような土地が全国にはたくさんあるのです。そしてそこには、同様に「何も無い」と感じてしまう住民が住んでいることでしょう。

でも、実際には、山があり、寺があり、料理があるので

す。観光客が語りかければ、その土地の人しか知りえない情報や知識が眠っているものです。景観それ自体は何も語ってくれませんが、しかし、そこから見える地形の成り立ち、人々の営みの様子・・・様々な情報が「打てば響く」ように伝わってくるとすれば、この場所にこないと分からない知識を得ることができる、つまり、ここに足を運ぶ動機が生まれるのでしょう。

「めずらしい」「稀少だ」ということを誇るより、「みやまにはいいものがある」と打てば響くように言える市民が増えることの方が観光客には魅力に映るでしょう。そして、せっかく来たのだから、それをおすそわけしてもらうことを願うでしょう。

.....

合併して「みやま市」になって4年が経過しています。それぞれの良いところを持ち寄って、新しい未来につなげていこうと考えていたことは、実現しているのでしょうか。

同じ土地に住み、毎日同じ風景を見ている人同士、お互いの良いところや、頑張っていることを共有できるようになったのでしょうか。もし、まだまだ満足に実現していないのであれば、どうすればよいのでしょうか。

みやまの人がお互いの良いところを認め合い、紹介しよう。

(そして、そこに観光客のニーズが合致するように誘導する)

そんなみやま市に脱皮していくための道筋を見つけること。

今、みやま市民が手にすべき（観光振興）計画です。

みやま市観光振興計画

目 次

P1	・・・第1章 みやま市における観光・物産の現状と課題
P9	・・・第2章 みやま市の観光・物産を巡るニーズ
P27	・・・第3章 みやま市の観光・物産施策の骨格
P35	・・・第4章 ネットワーク形成のための課題（ソフトづくり）
P41	・・・第5章 ネットワーク形成に伴う環境整備について（ハード整備）
P45	・・・第6章 事業計画
P53	・・・資料編



みやま市観光振興計画

第1章

みやま市における観光・物産の現状と課題

この章では、みやま市の観光や物産に関する現状を分析し、そこから浮かび上がる課題を整理します。

1-1：みやま市の観光の現状

1-2：みやま市の物産の現状

1-3：みやま市の観光・物産の課題の整理

みやま納涼花火大会

みやま市瀬高町で30年以上行われている花火大会は、8,000発を超える花火が夏の夜空を彩る。6万人を超える人出があり、みやま市最大のイベントである。

1 みやま市における観光・物産の現状と課題

1-1 みやま市の観光の現状

1-1-1 みやま市の観光客数

近年の国内旅行者の動向として、旅行の回数が減ると同時に、高速道路の値下げにより、車で移動できる日帰りの旅行スタイルが人気となっています。したがって、旅行に伴う消費額も減少傾向にあります。

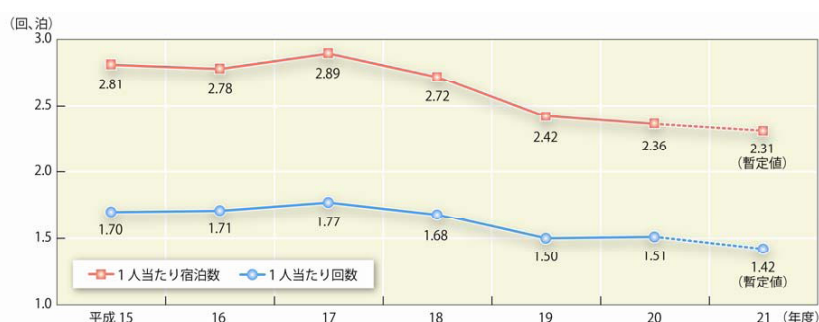


図1. 国内の旅行者の動向
(観光庁ホームページより)

みやま市も全国的な傾向と同じく、観光客数は微減しています。特にみやま市の宿泊客数は近隣に比べて少なく、久留米市や大牟田市では観光客の10%以上が宿泊するのに対し、みやま市は2%にも満たない状況となっています。これは、観光客の滞在時間が短くなると同時に、経済効果(消費額)が少なくなる結果に結びついています。

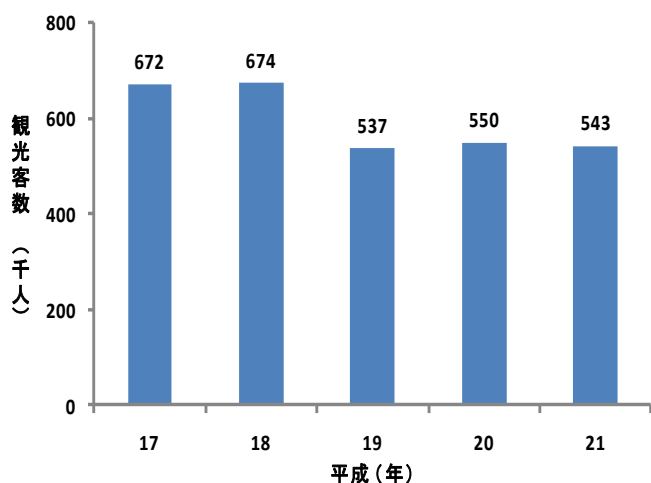


図2. みやま市の入込観光客数の推移
(福岡県観光入込客推計調査)

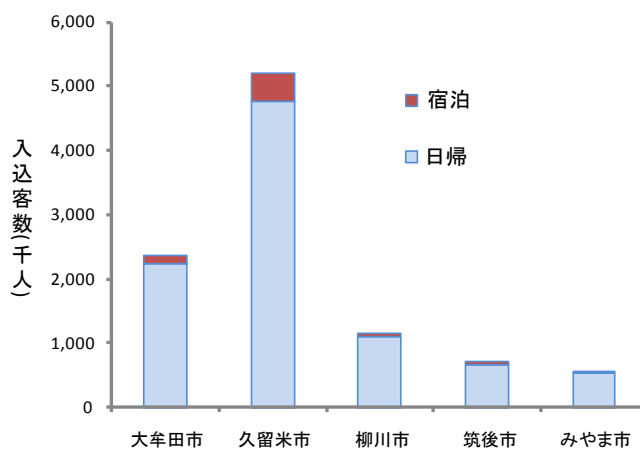


図3. 平成21年 筑後地区の入込観光客数の比較
(福岡県観光入込客推計調査)

次に観光客の数を月別に見てみると、7月が突出して多く次いで8月が多く、花火大会など大きなイベントが集客に貢献していることがわかります。次は春（4月）と秋（11月）となっています。

これを、久留米市や柳川市と比べてみると、柳川市はみやま市のほぼ倍の年間の入込観光客数ですが、7月だけ逆転しています。また、久留米市は総数も大きいですが冬場にも観光客数の多い時期があります。このように見てみると近くの久留米市や柳川市に観光客の多い時期には、みやま市への立ち寄りを誘致することが期待できます。

みやま市の年中行事の例



花見（3月）
有名な天保古山の平家桜の他にも、市内には桜の名所が多い。



花火大会（7月）
みやま納涼花火大会は例年7万人前後の人が集まるイベントである。

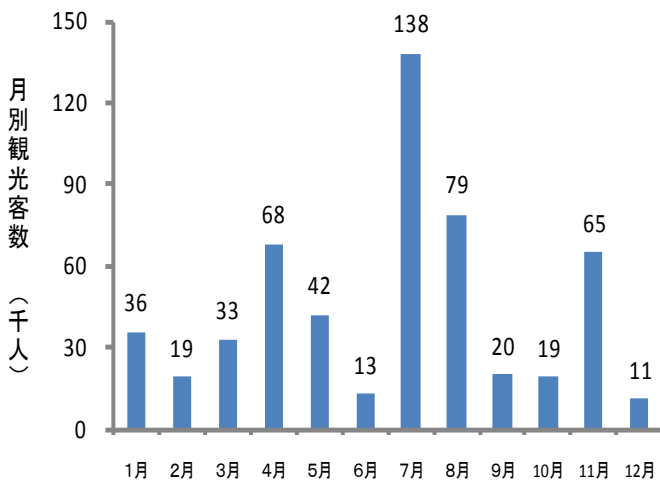


新開能（10月）
300年の歴史を持つ伝統芸能には毎年多くの観客が集まる。



秋の紅葉（11月）
秋の清水山にも北部九州を中心に多くの行楽客が訪れる。

みやま市の月別入込観光客数



他都市との比較

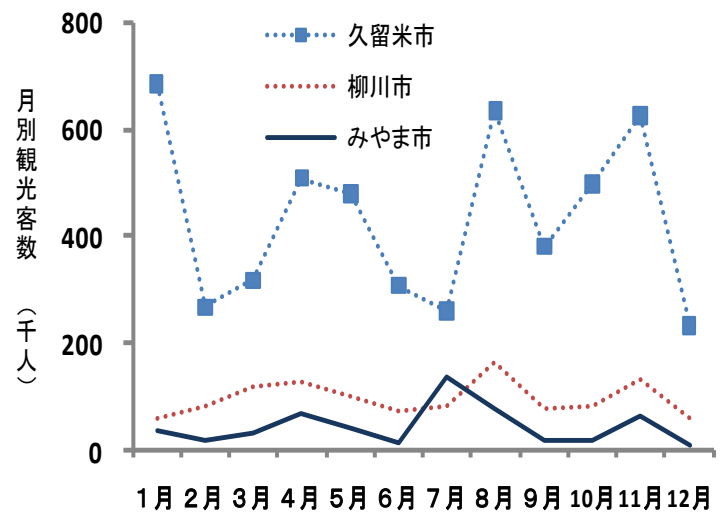


図4. みやま市の月別入込観光者数と他都市との比較（平成21年）福岡県観光入込客推計調査

1-1-2 みやま市の主な観光資源



高田濃施山公園

みやま市の観光資源は、古代から近代に及ぶ豊富な歴史性と、豊かな自然を反映したものとなっており、幸若舞など全国的にも稀少な芸能が残されています。また、交通の要所であることや、豊富な農業生産を背景にして酒蔵や製蠟業、花火や樟脳づくりなどが発達し現在に続いています。しかしながら、全国的に知名度が高いものは少なく、夏や秋の行楽シーズン以外での安定的な集客には結びついていません。

表1 みやま市内の観光資源（観光ガイドブックより）

<p>名所・旧跡</p>	<p>公園：清水公園、お牧山公園、高田濃施山公園、中ノ島公園、女山史跡森林公園 など 自然：カササギ生息地、クスノキ林、蒲池山ため池（ため池百選）、加茂川地区ホタル、矢部川河川敷菜の花 など 歴史：清水寺、平家の塔 など 遺跡：女山神籠石(国指定史跡)、石神山古墳(国指定史跡)、権現塚(市指定)、旧柳河藩干拓遺跡(県指定史跡) など</p>
<p>体験・見学</p>	<p>観光農園：みかん狩り、ぶどう狩り など 食品：酒蔵見学、醤油工場見学、冷凍たこ焼き工場見学、海苔工場見学 など 伝統工芸：きじ車、花火、和蠟燭、樟脳 など 季節観光：さくら（清水公園・新船小屋堤防桜並木・女山史跡森林公園・天保古平家一本桜・高田濃施山公園）、紅葉（清水山一帯・長田のイチョウ）、梅（座敷梅）、ぼたん（清水山ぼたん園） など</p>
<p>祭り・イベント</p>	<p>祭り：大人形と大提灯（県指定有形民俗文化財）、祇園祭、芳司・本郷のドンキャンキャン（県指定無形民俗文化財） など 伝統芸能：幸若舞（国指定重要無形民俗文化財）、新開能（県指定無形民俗文化財） など イベント：みやま納涼花火大会、鯉・恋・来、やまかわ平家まつり、ため池ほたる火まつり、おもちゃ花火フェスタ など</p>

1-2 みやま市の物産の現状

1-2-1 みやま市の特産品

みやま市は肥沃な土地を活用した農業が盛んです。120億円を超える農業産出額の内、約5割はナスやセルリーなどの野菜が占めています。また、山川みかんなどの果実の産出額も大きく、米作と同程度です。また、水産業では海苔の収穫があります。

福岡市などの大消費地に近接していることから、特に、新鮮な野菜の産地というイメージを形成していると考えられます。近年、道の駅などの野菜の直売所には多くの消費者が集まっており、みやま市を訪れる大きな動機としても、新鮮な野菜の購入ができるということが上げられます。

一方で、「瀬高」ナス、「山川」みかん など、旧町名を冠するブランドイメージを持たれているのも実情です。みやま市の特産品を育てていくことが今後必要になります。

一方で、全国的にも珍しくなったものづくりの製造現場がみやま市には存在しています。天然樟脳や和蠟燭、花火などが挙げられます。これらの存在も、みやま市における個性的な観光資源として考えれば、みやま市観光の可能性を押し広げる好材料といえるでしょう。

近年は、観光地を巡る観光・旅行とは別に、環境をテーマにしたエコツーリズム、食や農業をテーマにしたグリーン・ツーリズム、文化観光、産業観光、医療観光、スポーツ観光など、多種多様な旅行スタイルが生まれています。

もともと福岡市や久留米市などの都市に近く、交通アクセスもよいという条件をクリアしているみやま市は、観光客の多様なニーズを上手に応えられるチャンネルがあれば、容易に観光客を獲得できるチャンスに恵まれていると考えられます。また、新幹線の開業や、高速道路インターチェンジの開設により、関西圏もマーケットとして取り込むことができれば、観光産業をきっかけとした大きな経済効果やまちの活性化につながられます。その意味では、みやま市の肥沃な土地をベースとした農林水産業とその他の産業は、未知の観光資源としての可能性を秘めています。



山川のみかん

気候と地形・土壌に恵まれて良質なみかんの産地として知られている。



樟脳工場

かつて、長田地区には複数の樟脳工場があり九州各地からクスノキが集積した。天然樟脳は珍重され、海外にも輸出されていた。



製蠟工場

九州各地から集められたハゼの実実は昔ながらの製法で蠟となり、ろうそく以外にも化粧品やコピー機のトナーの原料などとして幅広い分野に納品される。全国でも珍しい製造風景である。

表2 みやま市内の物産

<p>素材</p>	<p>果物： いちご（あまおう）、ブドウ、みかん、スモモ、キウイ など 野菜： なす、たけのこ、トマト、セルリー など 花卉： トルコギキョウ、ガーベラ、ダリア、百合 など</p> 
<p>加工品・名産品</p>	<p>食品： シャム、たこやき、和菓子、洋菓子、のり、高菜漬 など 発酵： 醤油、味噌、日本酒 など 伝統工芸： 和蝋燭、樟脳、きじ車、花火 など</p> 

1-3 みやま市の観光・物産に関する課題整理



酒蔵でのイベント

みやま市は酒どころでもある。市内各所の酒蔵では、冬に仕込んだ新酒の発売を祝って、2月から3月にかけて相次いで酒蔵開きが催され、多くの日本酒ファンが集まる。こうしたイベントに参加し、出来たての酒を買うということ自体が、旅の目的となりうる。

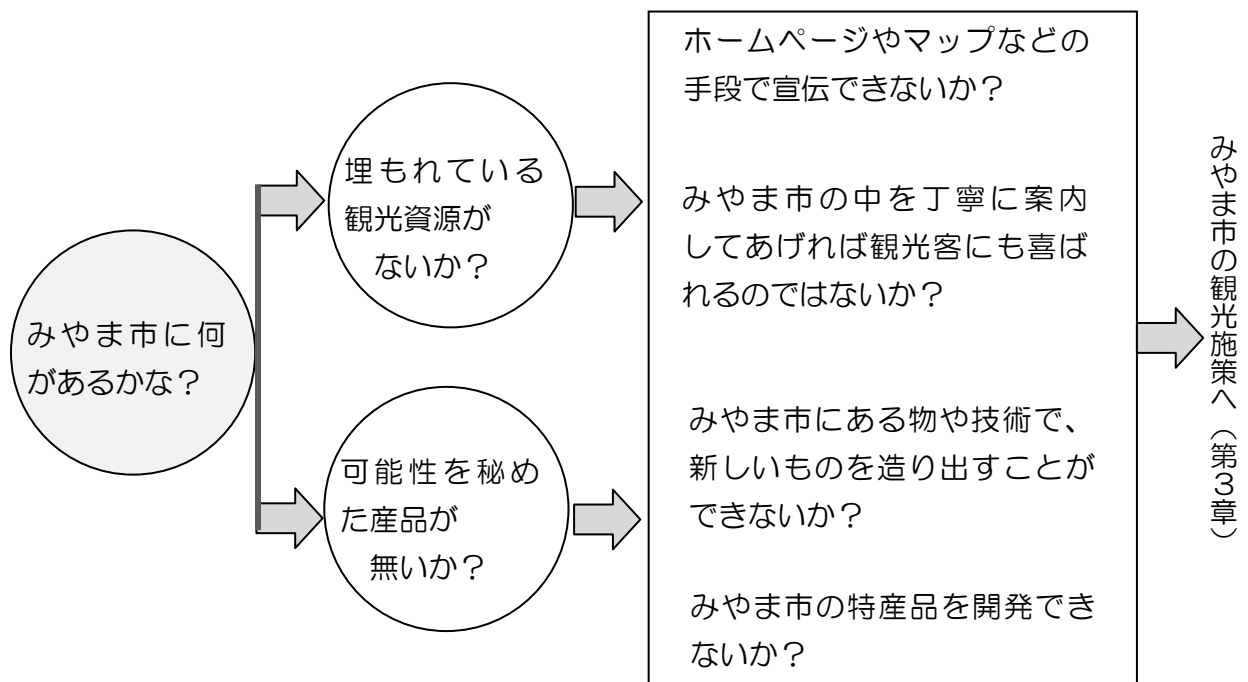
みやま市内の観光資源は、それ自体の魅力は世間のニーズから見れば必ずしも高い満足度を実現しているとは考えにくい状況ですが、一方で、足元への興味関心などの高まりを受けて、派手さは無いにせよ、しみじみとした魅力にも関心が集まりつつあります。今後の傾向としては、「健康増進」「社会や人の役に立つこと」「贅沢な気分にはひたる」「実益（利益）を求めること」などが余暇にも求められるという調査報告もあります（参考：レジャー白書2010より）。

そうしたニーズを上手く取り込むことができれば、みやま市の新しい可能性を開くことができます。

みやま市には、旧町時代の特産品が依然として市を代表する特産品となっていますが、新しさに欠けるばかりか、新市誕生のメリットを十分に活かしていない状況でもあります。

みやま市の持つ生産力と技術力を合わせてこれまでにない魅力を造り出すことが必要になります。

みやま市では、今みやま市内にあるものを見直し、それらの中からみやま市らしい観光や物産のスタイルを築いていきます。



参考：余暇に関わる関心の変化（レジャー白書 2010 より）

近年の旅行ニーズの傾向として、最新のレジャー白書（公益財団法人日本生産性本部 余暇創研）では、以下の4つの点を上げています。①社会や人のために役立つこと ②健康や体力の向上を目指すこと ③ぜいたくな気分になること ④実益（収入）に結びつくこと これらの点は、みやま市を訪れる観光客にも当てはまります。新鮮・安全で安い農産品への購買意欲の高まり、地元産品等を買って支えることへの理解の高まり、ウォーキングへの関心の増大などが感じられます。これらのことを念頭にみやま市の観光振興計画を立案していくことが肝要です。

本白書の特別レポートでは「2020年の余暇」と題し、今後10年を想定して余暇の需要構造の変化について展望した。アンケート調査結果では、「社会参加」や実益など、人々の余暇価値観の今後の変化の方向性が浮き彫りになった。

分析では前回調査時点（平成9年）と今回調査時点（平成21年）、および今後の「余暇に求める楽しみや目的」について比較を行った（巻頭図表4）。今後の余暇価値観変化のポイントとなるのは、「今後」のニーズが「現在」を10ポイント以上上回った①「社会や人のために役立つこと」、および②「健康や体力の向上を目指すこと」③「ぜいたくな気分になること」④「実益（収入）に結びつくこと」の4項目で、従来の余暇イメージに必ずしも沿わない項目も含まれている。

①②は高齢者層、③④は若年層が多い。高齢者層では「健康」を意識しながら人生・余暇の経験を活かして地域や社会への参加を求め、若年層では自由時間を活かして自分を磨き、より高い収入を得たいという意識が読み取れる。共通するのは、従来の「余暇=オフ」といった単純な切り分け方がこれまで以上に通用しなくなる。

表3 余暇に求める楽しみ・目的の変化（平成9～22年）

	平成9年調査	22年調査	今後の希望	伸び幅 (今後-現在)	
1	心の安らぎを得ること	59.1	66.9	67.0	0.1
2	友人や知人との交流を楽しむこと	57.8	46.2	51.2	5.0
3	身体を休めること	48.5	52.3	50.8	-1.5
4	家族との交流を楽しむこと	42.8	45.2	50.4	5.2
5	健康や体力の向上をめざすこと	40.2	48.7	59.9	11.2
6	日常生活の開放感を味わうこと	35.7	38.9	39.2	0.3
7	自然に触れること	35.4	35.9	44.9	9.0
8	知識や教養を高めること	25.2	36.7	46.1	9.4
9	自分で作れる喜びを満たすこと	19.8	24.9	28.7	3.8
10	芸術や美的な関心を満たすこと	16.5	24.5	30.8	6.3
11	好奇心を満たすこと	11.3	27.6	30.4	2.8
12	社会や人のために役立つこと	9.9	11.9	25.7	13.8
13	ぜいたくな気分になること	9.1	21.4	32.5	11.1
14	仕事や学習への新しい意欲を得ること	9.0	14.2	18.9	4.7
15	技術や腕前の向上をめざすこと	8.9	14.2	18.1	3.9
16	仕事や学習に役立つこと	8.7	18.9	20.7	1.8
17	想像力を発揮すること	6.0	12.4	16.8	4.4
18	実益（収入）に結びつくこと	6.0	15.1	25.6	10.5
19	賭けや偶然を楽しむこと	5.6	7.4	6.8	-0.6
20	腕を競い競争すること	4.2	3.6	3.8	0.2
21	推理、想像を楽しむこと	3.8	8.3	8.8	0.5
22	スリルを味わうこと	3.7	4.6	5.0	0.4

1～22までの選択肢を選ぶ人の割合の経年の変化を見ています。平成22年現在で重視する楽しみ・目的と、今後重視したいものを比べると、5・12・13・18の項目が大きく伸びています。つまり、これらのテーマに人々の関心が出ていくということを示しています。また、平成9年調査と比べると、その伸び幅の大きさがよく分かります。特に18、実益（収入）に結びつくことは4倍の伸びを示しています。